

2026（令和 8）年 9 月 17 日
科学技術振興機構（JST）

戦略的創造研究推進事業 CRONOS における 2026 年度新規研究開発課題の決定について

JST（理事長 橋本 和仁）は、戦略的創造研究推進事業 情報通信科学・イノベーション基盤創出（CRONOS）の 2026 年度における新規研究開発課題を決定しました。

CRONOS は、情報通信分野の重要性が世界的にますます高まっていることを踏まえ、Society 5.0 以降を見据えた未来社会における大きな社会変革を実現可能とする革新的な情報通信技術の創出と、革新的な構想力を有した研究人材育成に取り組み、日本の情報通信技術の強化を目指すものです。

本プログラムは 2024 年度の開始以来、今回で 3 回目の募集を迎えました。2026 年度は昨年度同様、主に情報通信分野を支援する中尾領域（プログラムオフィサー（P0）：中尾 彰宏）と、主に情報処理分野を支援する川原領域（P0：川原 圭博）の 2 領域で提案募集を行いました。募集は 2026 年 3 月 4 日（水）～5 月 20 日（水）に実施し、全体で 14 件の採択予定に対して産学官各界より 115 件もの応募がありました。

募集締め切り後、P0 が領域アドバイザー（AD）らの協力を得ながら、領域ごとに書類選考と面接選考を行いました。厳正な選考を経て、12 件の採択課題を決定しました。なお、一部提案については選考が継続しているため、今後最大で 2 件の追加採択の可能性があります。決まり次第、CRONOS ウェブサイトでお知らせします。

各領域でのマネジメントの下、成果最大化に向けて研究開発を推進します。

■篠原 弘道 プログラムディレクター（PD）のコメント

今年度も、CRONOS が掲げるグランドチャレンジの実現に向けて、独創性と挑戦性に富んだ研究提案が多数寄せられました。P0・AD による厳正な審査・議論の結果、情報通信分野の未来を大きく切り開く可能性を持つ研究開発課題を採択できました。情報通信技術は社会・産業・人々の活動基盤としてますます重要性を増しています。CRONOS では、卓越した基礎研究の推進に加え、その成果が将来の社会変革へとつながることを重視しています。採択課題から新たな研究潮流が生まれ、多様な研究者の参画によって研究の裾野が広がっていくことを期待しています。採択された研究開発課題が、それぞれの挑戦的な目標に向けて研究を発展させるとともに、情報通信分野の未来を切り開く原動力となるよう、研究推進や社会との対話、ステークホルダーとの連携等の観点から継続的に支援をしていきたいと考えています。

事業および選考・採択結果の詳細は以下のウェブページを参照してください。

事業について：<https://www.jst.go.jp/kisoken/cronos/>

採択課題一覧など：<https://www.jst.go.jp/kisoken/cronos/koubo/2026/list.html>

＜添付資料＞

参考：戦略的創造研究推進事業 CRONOS の概要

＜お問い合わせ＞

＜事業に関すること＞

科学技術振興機構 未来創造研究開発推進部 CRONOS 推進グループ

菅原 理絵（スガワラ マサエ）

〒102-0076 東京都千代田区五番町 7 K's 五番町

Tel : 03-6272-4004 Fax : 03-6268-9412

E-mail : cronos@jst.go.jp

＜報道に関すること＞

科学技術振興機構 広報課

〒102-8666 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ

Tel : 03-5214-8404 Fax : 03-5214-8432

E-mail : jstkoho@jst.go.jp

＜科学を支え、未来へつなぐ＞

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちはだかり、乗り越えるための解が求められています。JST は、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JST は荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JST は、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。

戦略的創造研究推進事業 CRONOS の概要

戦略的創造研究推進事業 情報通信科学・イノベーション基盤創出（CRONOS）の詳細内容は、ウェブページ（<https://www.jst.go.jp/kisoken/cronos/>）にて公開しています。

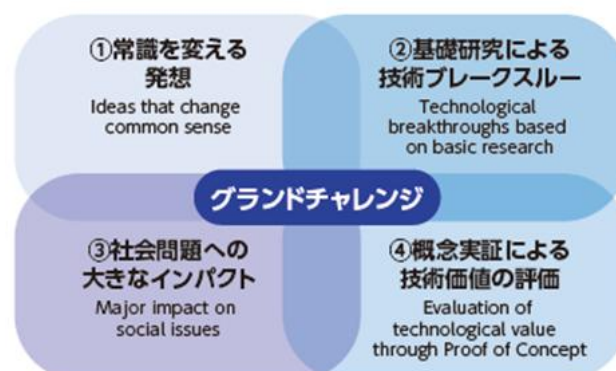
■プログラムの概要

本プログラムでは、Society 5.0 以降を見据えた未来社会における大きな社会変革を実現可能とする革新的な情報通信技術の創出と、革新的な構想力を有した研究人材育成に取り組み、日本の情報通信技術の強化を目指します。研究開発の推進に当たっては、情報通信科学の常識を変えるビジョンがあり社会問題への大きなインパクトをもたらす挑戦的な目標（グランドチャレンジ）を設定します。その貢献に向け、基礎研究と応用研究の垣根を越える運用スキームにより、社会変革につながる基礎研究とその成果の概念実証（POC：Proof of Concept）等を促進します。

本プログラムは、プログラムディレクター（PD）が、プログラムアドバイザー（PA）からの助言等を踏まえ、統括します。また、提案された課題の選考や採択した課題の研究マネジメントや評価等は、領域ごとにプログラムオフィサー（PO）が領域アドバイザー（AD）らの協力を得ながら行います。

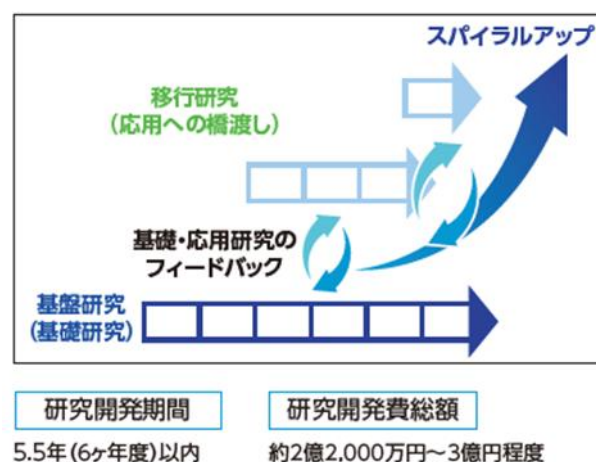
<グランドチャレンジ>

グランドチャレンジのコンセプトは、右の図の①～④を含むものとしします。グランドチャレンジはさまざまな技術領域・階層を包含するもので、この達成に向けた取り組みを通じて、多様な研究アプローチにおける革新的な情報通信技術の創出と人材育成を図ります。



<運用スキーム>

本プログラムにおける研究開発課題は、基礎研究を中心とする「基盤研究」と、応用への橋渡しを目指す「移行研究」から構成されます。本プログラムでは、情報通信科学における研究開発の特徴を踏まえ、基礎研究と応用研究の垣根を越える運用スキームを取り入れ、社会変革につながる基盤研究とその成果の POC 等に取り組みます。



以上